

どうして聞けない？ 住民の声

あなたは「ご理解」できますか？

8月24日、わずか数日間の告知を村にさせ、ＪＲ東海は集まった住民を前に、説明会後の松川インター大鹿線の道路改修実施を明言しました。着手日は説明会終了後に記者発表。29日に工事に着手し（県内初）、31日に安全祈願祭を開き、本体工事の説明会日程を明示。こういった日程は説明会時には決まっていたはずで、柳島村長ももちろん式典に出席しています。しかし、村もＪＲも住民の前ではあえて説明しませんでした。

説明会后、JR東海の澤田中央新幹線建設部長は「理解された」と記者に一方的に表明。ところが、中川村でも阿智村でも説明会后澤田部長は「理解された」と記者発表していました。県も村もJRのために工事のアレンジをするばかりで、JRの言い分を丸のみです。村なんてちょろいし、心配なんて聞いていたらきりがない……工事強行に向けて本音が垣間見えます。そんなJRが進めるリニア工事、あなたは本当に「ご理解」できますか。

【ご説明1】住民理解を決めるのはJR東海

「理解と同意がないと工事はしない」と言ってきたＪＲ東海。だから私たち住民はＪＲの説明を真剣に聞いてきました。自分のことは自分で決められると思っていました。でも、ＪＲはあなたたちのことは私たちが決める、と工事を強行しました。

【ご説明2】理解する方法を決めるのもJR東海

JRは「一定の秩序が必要」と地区説明会で報道を排除し、質問の回数を規制。自治会長が求めた傍聴者の規制もしました。説明してほしいければ決まりを守れということです。説明責任はJRにあるはずなのに。

【ご説明3】残土置き場協議は順調……ウソでした

説明会や対策委員会で、残土の置き場も決まらないのに工事は始められないと当たり前の疑問が出ました。原発を例に出すまでもなく、床屋さんだってゴミ箱がなければ髪は切れません。JRは松川町の生田を搬送先に上げ「町や地権者と協議は進んでいる」と説明していました。ところが松川町の深津町長は「何も決まっていない」「地権者との協議も順調とは言えない」と朝日新聞に答えています。

【ご説明4】住民の懸念より工事の円滑な実施

24日の説明会では、住民のための道路改修なら、道路

改修が終わってから本体工事を始めるのが順番と意見が出ました。JRは、大量の残土を運ぶダンプの通過だけ改修後にすると説明しました。結局、住民が工事の邪魔になるから道を広げただけでした。村との協定も全工事終了後かもしれません。

【ご説明5】損害が出ても補償はしない

小浜線の通勤・通学や観光等、これまでできていた生活に支障が出て、ＪＲは補償は考えていないと繰り返してきました。山砂搬出地などでは、大量のダンプの往来で死亡事故も含めた交通事故や粉じん、騒音の被害が発生し、「ダンプ公害」と呼ばれてきました。もちろん、景観破壊、工事施設や飯場の建設による観光業への影響は甚大です。被害は知らない、住民は我慢しろ、というのがＪＲの変わらぬ姿勢です。

【ご説明6】全額自己負担もウソ……公的資金投入

JRは「全額自己負担です」と言って、国に事業を認可してもらいました。しかし免税措置を政府にねたり、今度はズルズルと財政投融资を受けようとしています。「夢のリニア」じゃなくて、自己負担で建設するというのが夢でした。認可は取り消すべきですし、そんな見通しの甘い事業に私たちが協力する理由も最初からなかったのです。



村議会に提出するリニア反対陳情署名を集めています！ 問い合わせは以下
「私たちのことは私たちが決める」 いっしょに選ぼう！ リニアのない大鹿村

☒大鹿リニアを止める実行委員会 (仮称)

TEL 0265-39-2067 (宗像) メール munakatami@gmail.com

工事強行でもう無茶苦茶「リニアが通れば道理が引込む」

呼び出しといて話聞かない

25日のリニア対策委員会。前日の説明会では住民の不満や不安が噴出しました。ところが議題はリニア本体工事の説明会内容について。前島委員が住民の心配を思えば、とてもJR東海のスケジュールのための話し合いはできないと冒頭発言しました。リニア対策委員会は住民の生活と環境のために村長が招集したものです。本来ならそのために、前日のJRの説明を受け、住民の懸念にJRにどう答えさせるのかを委員の間で知恵を出し合うところです。逆に村長は自分が委任した委員の意見は聞かず、JRに説明を促しました。

自治会長抜き「説明会」?

26日の釜沢地区の説明会では、自治会長が呼んだ対策委員の出席をJR東海の長田さんが拒否。自治会長・副会長が出席をボイコットする事態になりました。会場は自治会が専ら管理運営しています。住民の意向を代表する立場の長尾副村長はやりとりを見ていないが素通りし、自治会長・副会長不在の説明会を傍観するだけでした。リニアの沿線住民組織は、「説明会は住民のために行うものであり、JR東海のためのものではない」「説明会は無効」と抗議声明を出しています。阿部知事も「対応悪い」とJRを批判しています。

住民の要望は白紙回答

小渋線の完全複線化、赤石岳を遮る送電線の地中化、工事車両の小渋川左岸の通行、道路改修が終わってからの本体工事着工……住民からは様々な要望がJRに届けられました。ところがJRは道路改修は最小限、送電線は架空、工事車両は道路改修中も国道152号線を通行、と住民の生活より工事優先です。スケジュールありき、経費節約が理由ですが、私たちがJRの都合に合わせる理由は何もありません。難工事必死の工事が始まれば予定通りに終わる保障もなく、大西山のように永遠に終わらない工事になりかねません。



ほんとにできるの?

残土は産廃

走る前から、暴走、尻もち、大幅遅延……

阿智で暴走、あちこちで暴言

住民や訪問者の丁寧なアンケートや実態調査、意向調査を積み上げた阿智村。清内路地区では、工事車両を受け入れる代わりに補償や村道を通らないよう求め、村の対策委員会が提出した質問にJRは「白紙回答」。澤田部長は「有用な建設資材だと思っている人もいる」と聞いてもないのに答え、残土の運搬が各地区の地区計画や振興事業の阻害要因になるとは考えない」と言い放ちました。その上、「他のところと比べても当地域は進んでいない」と自己中な発言を繰り返しています。これではまるで「公害企業」の態度です。

松川町長も戸惑い

豊丘村での残土受け入れに失敗したJR東海。松川町生田で「町や地権者と協議は進んでいる」と大鹿では説明しました。ところが松川町の深津町長は記者に聞かれて「何も決まっていない」「地権者との協議も順調とは言えない」と戸惑いを表明。予定地は36災で土砂災害が起きた場所と懸念を表明しました。中川村との境界の半の沢の埋め立て計画では、環境カウンセラーの桂川雅信さんから災害を誘発すると反対の意見書が出ていますが、両村とJRは無視。住民の安全を脅かす、リニア自体が災害です。

今さらどうして急ぐのか?

昨秋着工予定だった南アルプストンネルは1年の遅れ。静岡では2年間専門家の委員会で議論が続いています。山梨県早川町では3月にできた宿舎はずっと空き家。南アルプス市ではJRの説明会を自治会が拒否、中央市では405人の賛同で立ち木トラストが、神奈川県相模原市でもトラスト運動が始まっています。2014年の認可には5000人余が異議を申し立て、今年5月には738人が認可取り消しの提訴をしました。工期の遅れは杜撰なアセスで認可を急いだツケです。JRの自業自得に私たちがつきあう必要はありません。

JR東海にリニアを作れるくらいの金があるなら、大都市間の交通＝東海道新幹線を値下げし、飯田線はじめ地域の足＝ローカル線を地域振興に生かすのが、国鉄を引き継いだ公益企業の役割です。

リニア、あなたは本当にできると思いますか？ それともこんなリニアでもできてほしいですか？

「ポリシーのない人は理解できる」「大鹿村にはポリシーある人多くない」

★尽きない不安

この説明会は、最盛期に1日 1736 台（この日の説明では、1350 台ほどまで減らせるとしています）といわれるリニア建設の工事車両の通行を円滑にするため、村民の生命線である県道松川インター大鹿線にトンネル2本を新設し、5 区間を拡幅するというものです。JR 東海は、山梨県側で昨年 12 月に始めたリニア中央新幹線南アルプストンネルの長野県側工事を始める前提として、「地元から要望が出されている」（JR 東海の澤田尚夫・中央新幹線建設部担当部長）道路改修工事の着手を急いでいるのです。

24 日午後 7 時から開かれた工事説明会には、平日にもかかわらず 110 人が集まりました。JR 東海と県の説明を受け、会場から上がったのは、発生する残土の置き場が決まっていないのに工事説明会を行うことや、説明会を 1 回だけ、それも平日に行うことへの不満の声や、大量の工事車両による渋滞、排気ガスや狭い道でのすれ違いなど、日常生活を長期間脅かす工事への切実な不安の声でした。

★本当に住民の生活のための改修？

ある女性は「住民の生活のために道路やトンネルを造るのなら、まずそれができてから南アルプストンネル、というのが筋の通った順番だと思う」と、道路改修と南アルプストンネル両工事を並行して行おうという JR 東海の計画について疑問を投げかけました。

これに対し、澤田部長は「（南アルプストンネルの）発生土を運搬するときに、大量の工事用車両が出るので、それは道路改良が終わってから。南アルプストンネルに着手しても、発生土を運ぶ作業は道路改良が終わってから、という話をさせていただいている」と、従来の説明を繰り返しました。

隣の中川村で前日に開かれた工事説明会では、トンネルの発破作業の騒音や振動に懸念の声が出たのにも関わらず、「住民の理解は得られたと考えている」と澤田部長が述べた、と報じられました。大鹿村リニア対策委員会メンバーの前島久美さんはこの報道に触れ、「少なくとも、この大鹿での工事説明会が終わった後に、理解は得られたと勝手に考えて、こういった発言をするのはやめてください」と念を押しました。

ところが、2 時間近くに及ぶ工事説明会の後、澤田部長は報道陣に対し、「私としては、村民の方のご理解は深まったという感触を持っている」と述べました。

「今日の説明会をもって、理解したと言ってほしくないという強い意見もあったが」と地元記者が問うと、澤田部長は「大鹿村に 1000 人いらっしゃると思うので、全員がリニア、道路改良工事に対して、賛成ということではないと思う。しっかりしたポリシーなんか持っている方もいら



っしゃるので、反対というところから賛成だとならないと思う」とし、「そういう方が大半の意見かという、そうではないと思っている」と主張しました。

そう判断する根拠について、質問した人の多くが以前の説明会でもよく質問している、としたうえで、「これまでの説明会、（村の）リニア対策委、大鹿に人を置いている（JR 東海大鹿分室のこと）ので、そういったところや村役場

とのやり取りを踏まえ、私としての感触は、リニアの道路改良工事を着手する土壌は十分整ったと考えている」と説明しました。

★異論封じる対策委員会と柳島村長

翌 25 日の村リニア対策委に先立ち、「大鹿の 100 年先を育む会」は、工事説明会への抗議文を JR 東海に提出し、道路改修工事の中止を求めました。

この日の議題は「南アルプストンネル工事説明会の内容について」。冒頭、前島さんは「昨日の工事説明会の会場の雰囲気は、次のステップに進めるようなものではなかったと思う」と抗議しました。が、対策委員長や柳島貞康村長はそれを押し切り、次の工事説明会に向けた事前説明を JR 東海に始めさせてしまいました。

対策委終了後の報道陣の囲み取材。澤田部長は、道路改修の準備工事を週明けの 29 日から始めることを明らかにしました。終わりがけ、次のように問いかけてみました。私（井澤）「住民理解ということで、もう一度うかがいたい。工事説明会を行ったということで、それは住民の理解を得られたとお考えになるということか。これからも」

沢田部長「それはまだやってないんで」

私「どれだけ反対意見が出ても、『理解は深まった』と毎回、おっしゃるわけだが」

沢田部長「その都度その都度、私は判断しているつもり。毎回決まりきったことを言っているのではなくて」

名古屋市の名城非常口建設工事も、多くの疑問が投げかけられた説明会の直後、着工しました。

住民が生活を懸けて臨む説明会も、JR 東海にとっては「住民のガス抜き」ぐらいの位置づけでしかないということなのでしょうか。（井澤宏明・ジャーナリスト）

*その後 JR 東海は説明会で明示しなかった小波線の改良工事日程を明示。本体工事の説明会日程を設定し、8 月 31 日に安全祈願祭を実施した。



